学習内容報告書 フォーマット

学校名	串間市立本城小学校
授業者	武田　智惠美

6.　単元計画

6-1.　単元名

近くの自然（海山川）を知ろう

6-2.　学年

第３・４学年

6-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科

6-4.　単元の概要

本城小学校の近くにある本城干潟や黒荷田川に棲む生き物について図書や資料、インターネットなどで調べた後、実際に現地に行き生き物を観察したり専門家に聞いたりして、干潟や川の生き物について理解を深める。また、それらの学習を通して、本城の自然や環境について考え，地域のよさについても気づくことができるようにする。

6-5.　単元設定の理由・ねらい

本単元は、串間市小中高一貫教育の年間指導計画に基づいて設定されており、串間の自然・環境について理解し、自然と共存しようとする態度や環境問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。

中学年の時期は、串間について「知る」段階であり、「串間のよさを情報にもとづいて語れる子供たち」を目指す姿としている。入門期である中学年では、児童が自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に問題を解決していく学習を行い、学び方やものの考え方を身につけさせながら目指す児童像に近づけていくことが必要になる。

本単元では、「日本の重要湿地５００」に選定されており、「生命のゆりかご」と呼ばれている本城干潟をはじめとする地域の水辺について調べることを通して、自分たちの住んでいる地域の事物・事象能力特色や現状について知り、地域の素晴らしさに気づくことができるようにすることをねらいとしている。

6-6.　育みたい資質や能力、態度

○　近くの自然（海・川・生き物）や環境について、その特色や現状、課題探求に関心・意欲を持つ。
○　自ら課題を見つけ、協同的な活動を通して、考えを広げたり深めたりすることができる。
○　調べ学習や体験学習などを通して、生み出される自分の考えや意見、発見したことなどを整理し、まとめたり表現したりすることができる。
○　本城の自然や環境についての学習を通して、自分の地域のよさに気づくことができる。

6-7.　単元の展開（全１５時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価★ 外部連携 / 使用教材等
5	1　オリエンテーションを行う。 2　本城干潟に体験活動に行く。 3　干潟の生き物に詳しい方の話を聞く。 4　観察したことを振り返る。 5　課題を決め、学習計画を立てる。	○　自分で課題を見つけ、自分の力で考え、解決していく学習であること、自分のよさや工夫を発揮できる学習であることを説明する。 ○　干潟に生きる生き物を探したり、地域の自然を守っている方の話を聞いたりすることで本城干潟の価値にふれさせる。 ★　干潟に興味を持つことができたか。 【外部連携】 ・鎌田　英徳さん　・河野　宰さん ○　課題を決めるポイントを提示した後、課題を決めさせ、ワークシートに書かせる。 ○　発表会や川の体験活動の日程を知らせ、見通しを持たせ学習計画を立てる。 ★　学習方法を選択し、計画を立てることができたか。
4	1　学習計画に沿って調べる。 2　川の観察（水質調査）をし、自分の課題について探求する。 3　川の自然について詳しい方に話を聞く。 4　分かったことやもっと知りたいことを調べる。	○　できるだけ児童の考えで調べさせる。分からないことがあったら支援する。 ★　調べる過程で考えを広げたり深めたりできたか。 ○　川の観察（水質調査）を干潟と比較させながら活動させることで、新しい発見があるようにする。 ○　調べ学習のマナーや質問することを事前に指導しておく。 【外部連携】 ・串間市役所市民生活課生活環境係 ・串間土木事務所　・日南保健所 ★　新たな課題の探求に意欲的であったか。
6	1　まとめ方を知り、まとめる。 ・レイアウト　・文字の大きさ　・色分け ・カット　・感想　・割付け ・役割分担（作業分担） 2　発表会の計画を立てる。 ・発表の仕方　・発表の順番 ・役割（司会、計時） 3　「本城自然発表会」を行う。	○　まとめ方を例示し、ポイントを確認することで、自力でまとめることができるようにする。 ★　分かりやすくまとめることができたか。 ○　発表会の目的、流れについて話し合い、何を伝えたいのかはっきりとした目的意識を持たせる。 ○　友達の発表を聞いて、自分の考えが持てるようにする。 ★　分かりやすく表現することができたか。

7.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

7-1.　単元における位置づけ

単元　１５　時間中の　２～４　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/　単元 15 時間中の 4,5 時間目

7-2.　本時の目標

○　本城干潟の生き物を観察したり、地域の方の話を聞いたりする活動を通して、干潟や地域の海に生息する生き物に関心を持つ。

○　生き物が自然環境守っていることを知り、自分たちにできることを考えることができるようにする。

7-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点★（方法
1　体育着に着替え、準備物をもって学校玄関前に集合する。	○　準備物の確認をする。 探検バッグ、筆記用具、水筒、干潟用靴、ペットボトルに水（2L）、タオル、バケツか小さい虫かご、小スコップ 【安全対策】
2　徒歩で干潟へ出発する。	○　歩行中の交通安全指導や地域の方々へのあいさつの指導を行っておく。 ○　引率者は、救急箱・携帯電話を携帯し緊急時に備える。
3　本城干潟に到着する。荷物を置く。 4　活動の説明を聞く。 （1）　あいさつ （2）　指導者の紹介 （3）　トイレの確認	○　潮の満ち引きを見ながら、活動時間を決める。 ○　他校と活動を共に行うため、他校の職員と事前に活動の流れを合わせておく。
5　指導者の説明を聞く。 説明から、本城干潟が「日本の重要湿地５００」に選定されていることやそこに生息する生き物が年々減り、絶滅危惧種に指定されていることなどを知り児童は驚いていた。また、貝やカニを実際に見たり触ったりして関心を高めていた。	【外部連携】 ・鎌田　英徳さん　・河野　宰さん ○　指導者の説明を聞きながら、大事な事を落とさずにワークシートにメモさせていくようにする。 ★　指導者の説明を聞き、干潟に生きる生き物たちに関心を持ち、本城干潟の価値や環境への寄与に気づくことができたか。（観察・ワークシート）
6　干潟に入り、生き物探しや生き物観察を行う。	【安全対策】 ○　干潟の中には、皮膚を傷つける物も埋まっている

  児童たちは、干潟の泥の感触を感じながら、珍しい生き物に歓喜し、時間を忘れて生き物を探し、生き物の行動を観察していた。 7　生き物を干潟へ返し、足を洗って帰りの準備をする。 8　活動の振り返り （1）　感想 （2）　児童代表　お礼の言葉 （3）指導者からのお話 9　干潟を出発し、徒歩で帰校する。 １０　到着・片付け	ため、干潟用の靴に履き替えさせる。 ○　活動範囲を確認させ、一人で遠くまで行かないことを伝えておく。 ○　見つけた生き物は捕獲し、観察したり写真に撮ったりした後、自然環境保全のため自然に返すようにさせる。 ★　実際に、干潟に入り生き物の様子を観察したり、捕獲して間近で観察したりしたことで、海の生き物についての関心を高め、理解を深められたか。 （行動観察・発言） ○　生き物を捕獲した場所へ返し、持参したペットボトルの水で足や手を洗い、帰る用意をする。 ○　干潟で体験した活動を通して、思ったことや感じたことを発表させ、理解を深め合うようにさせる。 ★　感想を述べあい、指導者からの話を聞き、干潟の生き物についてさらに関心を持ち、自然や環境にも影響することから、自分の生き方を考えることができたか。（発言・ワークシート）

8.　今回の活動の自己評価

○　インターネットや図書資料を利用しての調べ学習活動と、本城干潟観察や黒荷田川の水質調査等の体験活動を通して、地域の自然について関心を高めることができた。
○　本城干潟観察や黒荷田川の水質調査等の体験活動から、自分たちの住む本城のよさや自分たちにもできる自然愛護について考えることができた。

9.　今後の課題

○　次年度からは、本城干潟観察と黒荷田川の水質調査を一年交代（隔年）で実施するため、スムーズに各指導者や関係機関と連絡を取れるように記録や引継ぎを行っておく必要がある。
○　干潟観察や川での活動は、天候や潮の満ち引きに左右されるため、雨天の場合の事を想定して余裕をもって計画を立てる必要がある。

10.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

　　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

　　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。